

## Computer 支援による Listening Comprehension 科目の 実践と評価

—難易度別CALL教材 *Listen to Me!* による一斉授業と自律学習の融合—

### The Implementation and Assessment of Computer-Assisted Listening Comprehension:

Integration of Classroom and Autonomous Learning Using Graded Materials

*Listen to Me!*

椎名紀久子

Kikuko SHIINA

### はじめに

Listening Comprehension 科目（通称LC科目）は名古屋外国語大学の学部共通英語基幹プログラム（CELP）のひとつで、コミュニケーション能力のかなめともいえるリスニング力を育成する科目である。リスニングに特化した科目が必修になっているのは、リスニングが「トップダウン情報」（社会生活上の知識）と「ボトムアップ情報」（文法力・語彙力・音声認識力など）を瞬時に総動員して理解する行動であるため、他の3技能にその力の転移が大きい技能だからである。

しかしながらリスニングに対する日本人英語学習者の苦手意識は強い。ネイティブスピーカーの発話速度は一般的に1分間に平均約200語、1秒あたり3.3語であるため、速い、全部繋がって聞こえる、すぐには意味がわからない、文字で確認しないと不安、といった声が多く聞かれる。浴びるように聞いて理解し記憶できるほどの時間や環境がない日本では、自然なスピードでノイズ（連結、脱落、同化、消失など）を多く含む音声英語教材で学習することへの抵抗感が強い。さらに、チャンク単位<sup>1</sup>ではなく語単位で聞き取ろうとしたり、単語が聞き取れても語彙量が少ないために即時に意味がわからなかったりで、リスニング力を伸ばすことは容易ではない。

そこで、TOEIC250～900という幅広い英語力を持つ本校の学生に対して効果的なリスニング指導をするためには、「適正処遇交互作用」(Cronbach, 1967)〕<sup>2</sup>の観点からも、名古屋外国語大学独自の「リスニングの授業設計<sup>3</sup>: Listening Instructional Design」が必要であると考えた。

筆者はLC科目の主任(2016年度)として、またITALLセンター長(2017年度、2018年度)としての計3年間、名古屋外大の学生に最もふさわしい授業設計(Instructional Design)について模索し、その構築に努めてきた。LC科目担当教員と成績管理プログラム開発協力者、メディア情報教育センター、電算システム室の支援を得ながら、2019年3月には、数種の検証を経て、完璧とは言えないが、ある一定のレベルに達した授業設計の完成をみた。本稿ではこの授業設計を仮に“Listen to Me! Instructional Design 2018”、略して「LTM 授業設計2018」と呼ぶ。

本稿では、「LTM 授業設計2018」の開発にあたって検討した5項目、「Web教材」、「学習形態・授業運営・授業方法」、「評価方法」、「成績管理プログラムと学習者カルテ」、「自律した学習者の育成」について解説するとともに、開発過程で行った「LC科目の授業改善に向けた研究」の概要について報告する。

## 1. Web教材

### 1.1 教材の選定基準

LC科目は1年次生(約800名)の必修科目である。幅広い英語力と多様な興味や学習動機の学生に最も適した教材の選定条件は次の4項目である。

- ①スピード調整がされていないごく自然な音声録音
  - ←ゆっくりはっきり話される音声で実用になる英語聴解力はつかない。
- ②学習者の意欲を掻き立てる多様な異文化情報・留学情報を含む。
  - ←留学や国際社会で働くことを夢見て入学する学生への動機づけ
- ③幅広い英語力の学習者に対応しうる多様な難易度(レベル)別教材
  - ←1年次生のスコアレンジ(TOEIC300～900)に対応可能な難易度の多様性

←易しすぎても難しすぎても学習意欲は高まらない。

- ④「聞けるようになってきた」(成就感)と実感させるTASKと豊富な支援情報を含む。

←単に繰り返し聞くだけではリスニング力は向上しない。

## 1.2 使用教材

### 1.2.1 *Listen to Me!* (長文聴解力育成)

上記①～④を満たす教材として、On-line教材*Listen to Me!* (略称 LTM) を採用した。「3 Step CALL システム (略称 3SS)」<sup>4</sup> (竹蓋, 2005) に基づいて開発された教材である。筆者は千葉大学で他の教員と共に本教材の開発と指導に携わってきたが、その効果は千葉大学や文京学院大学、他大学でも繰り返し検証されている。現在15教材が千葉大から名古屋外大に貸与されている。

3SSの教材では、学習教材の聞き取りが難しい時は随時音声を止めて、ヒント・解説・語彙情報 (Words & Phrases) などの情報をワンクリックで参照でき、音声を好きなだけ繰り返し聞いて、3ステップで内容理解を深めていくことができる。Step1で大まかな内容理解、Step2で詳細な内容理解、Step3では明言されていない話者の意図の理解や内容の要約をするTASKが含まれている。千葉大学教員 (高橋他) がアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアで独自に取材・撮影したのち教材化している。ホームステイ・日常生活・大学生活等に関する会話・案内・スピーチ・講義などの多様なトピックとジャンルがあり、CD-ROMとOn-lineでの提供が可能になっている。*American Daily Life*の3Stepの学習画面例を図1と資料に示した。

図2は名古屋外大で*Listen to Me!*を学習する時にアクセスする3SSのメニュー画面である。左欄が長文聴解力養成用教材*Listen to Me!*、右欄が語彙力養成用教材の一覧である。教材名をクリックすると学習を開始できるようになっているが、あらかじめメディア情報教育センターからログイン用のアカウントを取得しておく必要がある。LC科目の履修者については、第1回目の授業までにアカウントの発行手続きが完了している。

表1は各教材の名称と略称、内容、レベル、教材の難易度 (学習開始時のTOEICスコア) を示している。LC科目では、学生の英語力、興味、有用性、

1教材あたりの学習者数のバランスを考えて学習教材を限定して学習させている。表2に示したように、2016年度は各期に3教材を学習用に選定したが、2017年度以降は、学習者の英語力に一層対応できるように、TOEIC 700以上（上級）の教材も加えて、各期に計4種類の教材で学習させた。



図1 American Daily Life表紙

教材の学習 Part の音声確認画面



図2 3 Step CALL システムの教材メニュー

表1 教材名、略称、内容、レベル、難易度

<i>Listen to Me!</i> (長文聴解力育成用教材)				
教材名	略称	トピック	レベル	TOEIC
First Step Abroad	FS	初めての海外旅行、海外生活	入門	310～
First Listening	FL	日常会話、学生生活、笑い話	初級	380～
Doorway to the UK	UK	イギリスの生活と文化	初級	380～
New York Live	NY	ニューヨークの人々と生活	初中級	450～
American Daily Life	DL	アメリカの日常生活、衣食住を紹介	初中級	450～
People at Work	PW	アメリカで様々な仕事に携わり生活する人々へのインタビュー	中級	520～
Canadian Ways	CW	カナダの文化、歴史、生活	中級	520～
Introduction to College Life	IC	大学生活、研究 (中上級CL教材へ進むための準備用)	中級	520～
College Life	CL	大学生活、研究 (教授、学生へのインタビュー)	中上級	590～
Gateway to Australia	AU	オーストラリアの文化、生活	中上級	590～
A Bit of Britain	BB	イギリスの文化、歴史、生活	上級	660～
College Life II	CT	大学生活、研究 (教授、学生へのインタビュー)	上級	660～
News from the World	NW	世界各地からのニュース報道	上級	660～
World Health Issues	WH	世界の医療系ニュース	上級	660～
Art & Design in Britain	AD	美術、デザイン	上級	660～

表2 2016, 2017, 2018年度のLTM学習教材と学習者数

2016				2017				2018			
TOEICスコア	人数	1期	2期	TOEICスコア	人数	1期	2期	TOEICスコア	人数	1期	2期
900-990	213	IC	BB	900-990	37	CL	BB	900-990	54	CL	BB
800-895				800-895							
700-795				700-795							
600-695				219	IC	AU	600-695	292	IC	AU	
500-595							500-595				
400-495	273	NY	IC	400-495	229	DL	IC	400-495	245	DL	CL
300-395	216	FS	NY	300-395	312	FS	DL	300-395	128	FS	IC
200-295				200-295							
100-195				100-195							
	702				797				719		

学習教材の割り当ては、年度開始時（4月頃）に受験するTOEIC-IPのスコアと表1に示した教材毎の難易度を基準にして、ITALLセンター独自に開発した「成績管理プログラム」（詳細は後述）を使って割り充てた。第1回目の授業で、学生は指定された教材の音声を一回聞いて、30%程度<sup>5</sup>しか理解できないレベルかどうかを確認させた。基本的に50%以上理解できたり、体調不良でTOEICスコアが実力より低かったと申し出たりした学生には、相談のうえ、ひとつ上のレベルの教材変更を認めたが、レベルを下げることは認めなかった。TOEIC-IPを受験し損ねた学生には、英検やGTECなどの他の客観テストの成績などを参考にして教材を決定した。既定の期間内に割り当てられ

た教材を学習し終り、興味と余力があれば他の教材も学んで良いこととしたが、スモールステップで理解度をチェックするUnitテストは割り当て教材で受験することとした。

## 1.2.2 『Business Communication 1, 2』(TOEICの語彙力育成)

この教材は図2の右欄にある「語彙力養成用教材」のひとつで、TOEIC類出語彙を8 Stepで学習させるWeb教材である。LC科目はTOEIC対策を目的とした科目ではないが、教材レベルがTOEICスコアで表示されていることから、各自の英語力を知るひとつの指標となっている。そのため、学習意欲を高めるためにもこの語彙教材を使用することにした。1学期中に90語・180用例(チャンク)、年間で180語、360用例を音声や空所補充問題を通して、授業と自習により学習させ、1学期間に3回のテストを課した。学習語彙のトピックと8 Stepの流れを図3に示した。

## 2. 学習形態・授業運営・授業方法

### 2.1 学習形態

授業と自習を併合する学習形態とした。学生は授業時にはNUFSのサーバー内の教材に個々にアクセスし、各自のペースで個別に学習する。授業時間外は、ネット接続可能な環境であれば土日も含めて24時間アクセスして自習が可能である。学習者は個々の教材内の「進捗表」(図4)で各自の進捗を確認でき、学習開始時は前回終了した画面から開始できるようになっている。



図3 学習語彙のトピックと8Stepの学習

							HELP
UNIT 1	STEP 1	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	PART 6
	STEP 2	5 5 5 1 2 3	5 5 1 2	5 5 1 2	5 5 1 2	5 5 5 1 2 3	5 5 5 1 2 3
	STEP 3	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	PART 6
UNIT 2	STEP 1	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	PART 6
	STEP 2	5 1	5 5 5 1 2 3	5 1	5 5 1 2	5 5 5 1 2 3	5 5 5 1 2 3
	STEP 3	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	PART 6
UNIT 3	STEP 1	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	
	STEP 2	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4
	STEP 3	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	
UNIT 4	STEP 1	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	PART 6
	STEP 2	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 1 2	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4
	STEP 3	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	PART 6
UNIT 5	STEP 1	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	
	STEP 2	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4	5 5 5 5 1 2 3 4
	STEP 3	PART 1	PART 2	PART 3	PART 4	PART 5	
							QUIT
							BACK

図4 学習箇所を表示する進捗表

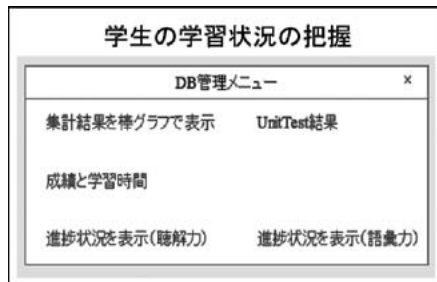


図5 教員用の学習状況把握メニュー

教員はサーバー内に自動保存されている学生各自の学習状況（学習時間・学習箇所など）を、適宜図5に示したサイトにアクセスして確認することができる。ただし学生個々の学外でのネット環境は必ずしも良くないため、正しく保存されないこともあるので、7号館のメディア情報教育センターにて自習することを強く勧めている。

## 2.2 授業運営

必ずしもリスニング指導が専門ではない教員でも無理なく授業ができ、全クラスが足並みを揃えて公平な授業展開ができるように授業日程を組んだ。表3は2018年度2期の日程表である。授業開講の曜日（火・水・金）ごとに

15回の授業日・学習内容・テスト日を明記し、19クラス（757名）は原則このスケジュールに従って授業を進めた。

火・水・金の各時限に開講されたクラス数・履修者数・クラスあたりの平均履修者数を表4に示した。例えば2018年度火曜1限は、3クラスの学生（1クラス平均38名、計114名）がサーバーに同時にアクセスして4種類の教材を学習したことになる。2016年度は1クラスの平均人数が60～70名（12クラス）で、1授業時間内に約200名が同時にアクセスした結果、画面がフリーズする、音声画像より遅延して表示されるなどのトラブルが多発した。特にテスト時のトラブルは致命的である。そこで同一時間帯に複数クラスがテストを実施する場合は、テスト開始時間を授業前半と後半実施の2グループに分けて、テスト実施時間が重複しないよう綿密な手順表を作成した（資料参照）。それに対して、「後半受験者は受験直前にテスト勉強ができるので前半受験者より有利になる」との意見が担当教員からあり、1学期間に2回ずつ前半と後半開始のクラスを入れ替えて公平性を図った（表5）。

表3 2018年度2期授業日程表

週	曜日			学習内容		テスト	
	火	水	金	Listen to Me! (LTM)	発展語彙	Unitテスト	発展語彙テスト
1	9/18	9/19	9/21	2期ガイダンス Unit 1 学習開始	Set 1 経済		
2	9/25	9/26	9/28	Unit 1	Set 2 組織・機関		
3	10/2	10/3	10/5	Unit 1 総復習	Set 3 金融・証券		
4	10/9	10/10	10/12	Unit 2 学習開始	Set 1～3 総復習	Unit 1	
5	10/16	10/17	10/19 授業なし	リスニング・アクティビティ			
6	10/23	10/24	10/26	Unit 2	Set 4 外交		Set 1～3
7	10/30	10/31	11/2	Unit 2 総復習	Set 5 待遇・賃金		
8	11/6	11/7	11/9	Unit 3 学習開始	Set 6 地位・求人	Unit 2	
9	11/13	11/14	11/16	Unit 3	Set 4～6 総復習		
10	11/20	11/21	11/23	Unit 3 総復習	Set 7 交通・地域		Set 4～6
11	11/27	11/28	11/30	Unit 4 学習開始	Set 8 コンピュータ	Unit 3	
12	12/4	12/5	12/7	Unit 4	Set 9 学問・教育		
13	12/11	12/12	12/14	Unit 4 総復習			Set 7～9
14	12/18	12/19	12/21			Unit 4	
15	1/8	1/9	1/11	総括			
16			1/18	リスニング・アクティビティ			



表4 各時間帯のクラス数と履修者数

2018年度 2期	クラス数	履修者数	平均
火1	3	114	38
火2	3	108	36
火3	1	37	37
火4	1	37	37
火5	1	36	36
水1	3	111	37
水2	2	108	54
金1	2	91	46
金2	3	115	38
計	19	757	40

表5 Unitテスト開始時間の公平化

2018年度2期 LTM Unitテスト実施時間帯 (2018.10.2)					
	担当者	担当曜日, 時限	火	水	金
第1回 Unit 1			10/9	10/10	10/12
	権名	火1, 火2, 火3	前半		
	新居	火1, 火2, 水1, 水2	後半	後半	
	Westby	水1, 金1, 金2		前半	前半
	浅野	火5, 金1, 金2		前半	前半
柳瀬	火1, 火2, 火4, 水1, 水2, 金2		後半	後半	後半
第2回 Unit 2			11/6	11/7	11/9
	権名	火1, 火2, 火3	前半		
	新居	火1, 火2, 水1, 水2	後半	後半	
	Westby	水1, 金1, 金2		前半	前半
	浅野	火5, 金1, 金2		前半	前半
柳瀬	火1, 火2, 火4, 水1, 水2, 金2		後半	後半	後半
第3回 Unit 3			11/27	11/28	11/30
	権名	火1, 火2, 火3	後半		
	新居	火1, 火2, 水1, 水2	前半	前半	
	Westby	水1, 金1, 金2		後半	後半
	浅野	火5, 金1, 金2		後半	後半
柳瀬	火1, 火2, 火4, 水1, 水2, 金2		前半	前半	前半
第4回 Unit 4			12/18	12/19	12/21
	権名	火1, 火2, 火3	後半		
	新居	火1, 火2, 水1, 水2	前半	前半	
	Westby	水1, 金1, 金2		後半	後半
	浅野	火5, 金1, 金2		後半	後半
柳瀬	火1, 火2, 火4, 水1, 水2, 金2		前半	前半	前半

★テスト中のPGFリーズを避けるために、さらに、後半組はテスト直前に復習できるため、公平性を保つためテスト実施を前半組(2回)と後半組(2回)に分けました。

★火3, 4, 5の世界共生学部は各1コマに1クラスのみですが、3クラスの公平性を考えて前半実施と後半実施に分けました。

2017年度と2018年度は、1クラスの学習者数を40~50名程度に抑えて、サーバーへの同時アクセス数を150名以内に抑えたが、世界共生学部(3クラス)の参加もあって、開講クラス数は、2016年度が12クラスであったのに対し、19クラスになった。今後フリーズトラブルの抜本的な解決ができれば、1クラス60名程度に戻してクラス数(担当教員数)を減らすことは可能と思われる。

### 2.3 授業方法

1クラスの学習者数が多くても、学習者個々が各自の英語力に適した教材で、各自のペースで、いつでもどこでも学習できるのはCALLシステムの大きな利点である。ただしLC科目では、授業を一種のスクーリング<sup>6</sup>の場として位置づけ、メリハリをつけるために、概ね全クラスで次の①~④を基本と

した指導の流れにした。①授業開始後約5-10分間：出欠確認・動機づけや励ましの話・注意事項の説明、②約40-50分間：LTMの個別学習、③約10分間：異文化情報の紹介・音声言語の特徴解説・目や耳を休めるための小休止、最後に、④約20-30分間：Business Communicationの語彙の個別学習など。

テスト実施の翌週には「学習者カルテ」（後述）を配布した。学生個々の学習方法改善のアドバイスをする場合は、①～④の長さや内容はフレキシブルにした。教員の創意工夫も重要なことから、微調整は各教員の裁量に任せた。例えば担当者によっては教室に質問箱を設けて授業時やメールで回答した（新居クラス）。テスト実施直後に自己の成績と学習方法を内省する「振り返りシート」をGoogleアンケートシステムで回答してもらい、翌週に適宜学生個々に対面でアドバイスをするなど、対面授業のメリットも生かすようにした（椎名クラス）。

個別学習でも困らないように、LC科目の履修者のみが24時間アクセスできるように、Moodle上に必要な資料をアップした。例えば、LTM教材の効果的な学習方法、LTMのWords & Phrases、語彙教材の単語と用例リスト、PCやネット上のトラブル解決策、重要事項のお知らせ等である。椎名の担当クラスではLC科目専用Moodleコースに毎授業の内容を記録して、欠席者がフォローできるようにした。

### 3. 評価方法

3SSのCALLシステム（図2）は、*Listen to Me!*（長文聴解力育成）と発展語彙（語彙力育成）の2本柱からなる。そこで、長文聴解力はUnitテスト4回分の成績（100%中50%）で、語彙力は語彙テスト3回分の成績（30%）で評価した。残りの20%は、授業中の学習態度や自習による学習状況のほか、担当教員が適宜与えた課題の達成度等を勘案して評価した。

#### 3.1 Unitテスト（LTM長文聴解力）

19クラス、約800名の履修者の理解度を公平に評価するために、学習範囲の理解度をスモールステップで確認できるLTM準拠のOn-lineテスト（阿佐&与那覇, 2013；与那覇他, 2015）を採用した。授業時間内に、指定された

パスワードを使って学生各自が自分の教材のUnitテストにアクセスし、各自のペースで解答する形式である。ただし解答時間は20分程度に制限した。20問解答直後に正解率（％）が表示され、解答や成績は自動的にサーバーに保存される。Unitテスト（20問）の内容・問題形式・評価事項は次のとおりである。

大問	設問数	内 容	形 式	テスト項目
1	5問	語句の音声を2回聞いて和訳	多肢選択	語彙の聴解力
2	5問	英文の音声を2回聞いて空所補充しながら単語を整序	Drag & Drop	文法力
3	5問	パッセージの音声を2回聞いて内容に関する質問に解答	多肢選択	内容理解力
4	5問	英文を読んで英語表現を記入	タイプ入力	英文再生力

### 3.2 語彙テスト（Business Communication：TOEICの語彙力）

語彙テストはITALLセンターの教員3名が紙版で作成し、全担当者が同一内容で実施した。聞き取りの音声を教卓からスピーカーで流し、解答用紙に手書きで解答させた。授業担当者が採点して翌週に返却し、解説をしたのち回収した。20問からなるテストの内容・問題形式・評価事項は次のとおりである。

大問	設問数	内 容	形 式	テスト項目
A	6問	英語表現の音声を2回聞いて和訳	多肢選択	語彙の聴解力
B	10問	和文英訳、英文の空所補充	多肢選択	語彙力・文法力
C	4問	和文英訳、英文の空所補充	空所にスペル記入	語彙力・文法力

### 3.3 授業態度・自習状況・教員が適宜課した課題による評価（例）

全体の20％を占めるこの部分の評価は教員の裁量に任せた。一例として椎名クラスでは、LTMの学習の進捗状況と総復習の週に配布したワークシートの活用状況を学習態度のひとつとして捉え、参考程度に評価した。具体的には、4週間毎に行うUnitテストに備えて、遅くとも第3週目（総復習の週）の授業日までUnitの学習を終了するよう指示し、3週目は総復習用に試作したワークシートを配布して学習させた。テスト後に回収して活用状況を把握

し、学生に適宜フィードバックとしてのアドバイスを行った。さらにUnitテスト終了直後に学生が提出した「振り返りシート」による内省についても参考程度に評価の対象とした。

#### 4. 成績管理プログラムと学習者カルテ

公平（公正）な成績処理、学習者にとってわかり易いカルテの作成、安全な成績管理の3点を、容易に、速やかに、正確に行える名古屋外大独自の「成績管理プログラム」を開発した。「LTM授業設計2018」の核となる部分で、外国語学部と世界共生学部の計7学科約800名（英米語、フランス語、中国語、日本語、英語教育、世界教養、世界共生）の成績処理と管理がボタンひとつで自動化できるようにした。2019年度発足の世界教養学部2学科にも対応できるようにプログラムを改訂した。具体的には下記の①～⑤の作業の自動化を画るプログラムで、学習意欲を高めるための学習者カルテの作成と期末の公平な成績評価のための基礎データ構築には必須のプログラムである。

LC科目担当の初年度（2016年度）は、下記の①～⑤の作業を、メディア情報教育センターの支援を得て筆者が行っていた。2017年度にITALLセンターが発足し、非常勤職員の木村正樹氏を迎えたことから、エクセルでマクロを組むプログラム開発をした。その結果、全履修者の成績と全学科の平均値算出が容易になった。さらに各クラスの座席表作成の自動化が可能になったほか、①～⑤の作業の効率化により、学習者カルテの作成が容易になった。学習者カルテのサンプルを図6に示した。成績管理プログラムのDirectory Treeと操作時のメニュー画面の一例を図7と図8に示した。

- ① TOEIC-IPのスコアに基づく教材振り分け
- ② TOEIC-IP（年2回）のスコアの項目別分析と上昇量の算出
- ③ 各Unitテストの総得点と問題の種類別平均値算出（学科別・クラス別・教材別）
- ④ 4種のUnitテストの難易度調整
- ⑤ 語彙テストの平均値の算出（学科別）

TOEIC-ITP スコアと上昇量										
受験日	Total スコア	Listening スコア	Reading スコア		1 期の使用教材			1 期組名		
4月22日	600	345	255		I C			O1 組		
12月9日	755	425	330		2 期の使用教材			2 期組名		
得点上昇	155	80	75		AU			O1 組		
受験日	項目別正答率 (%)									
	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
4月22日	53	67	88	69	47	30	55	39	71	68
12月9日	81	89	80	82	87	63	63	70	68	74
上昇率	28	22	▼8	13	40	33	8	31	▼3	6
Unit テスト 結果 [ 合計 (%) ] ※使用教材別の組別・学科別平均										
教材 \ Unit	LTM 1 期				LTM 2 期					
	U3(CW)	U1(I C)	U2(I C)	U3(I C)	U1(AU)	U2(AU)	U3(AU)	U4(AU)		
成績 (%)	80	95	100	80	60	90	90	85		
在籍組_教材別平均	59.5	90.3	90.6	86.4	71.8	74.4	84.7	84.7		
英米語学科_教材別平均	63.3	87.1	83.4	83.7	67.6	72.2	81.5	80.6		
全学科_教材別平均	60.6	84.4	80.6	81.0	66.3	69.6	79.1	77.0		
Unit テスト [ 設問タイプ別成績 (%) ] ※教材別平均 ( 2 段目 ; 組平均、3 段目 ; 学科平均、4 段目 ; 全学科平均 )										
Task タイプ	LTM 1 期				LTM 2 期					
	1	2	3	4	Task タイプ	1	2	3	4	
U3 成績 (%)	100	100	100	20	U1 成績 (%)	100	60	40	40	
1 組(CW) 平均	79.0	50.8	87.7	20.5	1 組(AU) 平均	84.2	75.8	84.2	43.2	
英米語学科(CW) 平均	85.1	52.8	89.7	25.5	英米語学科(AU) 平均	84.0	70.6	81.4	34.4	
全学科の平均	83.4	47.3	88.6	23.0	全学科(AU) 平均	83.1	69.0	80.1	32.9	
U1 成績 (%)	100	100	100	80	U2 成績 (%)	100	80	100	80	
1 組(I C) 平均	98.8	84.7	98.8	78.8	1 組(AU) 平均	86.7	68.9	82.2	60.0	
英米語学科(I C) 平均	99.0	79.7	95.0	74.6	英米語学科(AU) 平均	90.8	65.2	79.8	53.1	
全学科(I C) 平均	98.3	77.3	93.9	68.1	全学科(AU) 平均	89.3	63.0	77.4	48.8	
U2 成績 (%)	100	100	100	100	U3 成績 (%)	100	100	60	100	
1 組(I C) 平均	98.8	91.8	92.9	78.8	1 組(AU) 平均	87.5	91.3	86.3	73.8	
英米語学科(I C) 平均	96.3	80.0	90.2	67.2	英米語学科(AU) 平均	83.1	84.3	90.1	68.4	
全学科(I C) 平均	93.8	76.4	89.3	63.1	全学科(AU) 平均	79.9	82.0	88.5	66.2	
U3 成績 (%)	80	100	100	40	U4 成績 (%)	100	60	100	80	
1 組(I C) 平均	78.9	91.1	98.9	76.7	1 組(AU) 平均	95.3	78.8	98.8	76.5	
英米語学科(I C) 平均	83.8	87.3	97.0	66.7	英米語学科(AU) 平均	87.8	70.4	95.0	69.1	
全学科(I C) 平均	82.5	85.4	95.2	60.8	全学科(AU) 平均	85.3	67.9	94.2	60.8	
発展語彙まとめテスト 結果 ※2 段目 ; 組平均、3 段目 ; 学科平均、4 段目 ; 全学科平均										
	発展語彙 I				発展語彙 II					
	Set 1-3	Set 4-6	Set 7-9		Set 1-3	Set 4-6	Set 7-9			
成績 (20 点満点)	17 点	20 点	19 点	成績 (20 点満点)	19 点	19 点	20 点			
1 組 平均	16.1 点	18.1 点	17.7 点	1 組 平均	17.5 点	16.8 点	18.6 点			
英米語学科平均	16.4 点	18.0 点	17.7 点	英米語学科平均	17.3 点	17.3 点	18.7 点			
全学科の平均	16.2 点	17.7 点	17.2 点	全学科の平均	16.7 点	16.8 点	18.5 点			

図 6 学習者カルテ (例)

## Directory Tree 構造

- 01 作業の流れ
  - ・作業の流れ.pdf
- 02 時間割data作成
  - 01 時間割データ 推名先生より
    - ・【確定】2018年度\_教材開発者\_データ処理者\_事務職者\_2017.12.15.xlsx
  - 02 メディア情報センターに提出するもの
    - ・LTM) 担当教員&時間割登録フォーマット2018.xlsx
    - ・LTM) 担当教員&時間割登録フォーマット\_入力マニュアル.pdf
  - 03 時間割データ記録用
    - ・20○○年度\_担当教師名\_曜日\_時限\_使用教室.xlsx
    - ・2018年度\_担当教師名\_曜日\_時限\_使用教室.xlsx
- 03 組番号の設定
  - ・★20○○年度\_○期\_授業コードから組名へ変換用.xlsx
  - ・★2018年度\_1期\_授業コードから組名へ変換用.xlsx
  - ・★2018年度1期ロスタター番号振分表\_メディア情報センターより.xlsx
  - ・2018年度\_開講コマ一覧\_外国語学部【LC】\_授業コード一覧\_教務課より.xlsx
  - ・授業コードから組番号への変換マニュアル.pdf
- 04 組番号から席次の決定
  - ・★20○○年度\_○期\_LCクラス\_全履修者(再履修者含む)名簿\_組の席次決定用.xlsx
  - ・席次の決定操作マニュアル.pdf
- 05 座席表の作成
  - ・★20○○\_○期用\_座席表\_改訂済\_最終版\_最終版.xlsx
  - ・座席表メンテナンス\_更新マニュアル.pdf
  - ・座席表印刷マニュアル.pdf
- 06 使用教材の決定
  - 1期
    - ・★20○○\_1期\_使用教材決定用\_ALL.xlsx
    - ・★20○○\_1期\_使用教材変更用\_○○先生用.xlsx
    - ・1期使用教材の決定マニュアル\_ALL.pdf
    - ・1期使用教材の決定マニュアル\_先生用.pdf
  - 1期\_使用教材を学生への連絡\_差込印刷
    - ・20○○\_1期\_教材個票印刷\_A4\_10枚印刷用\_最終版.xlsx
    - ・マニュアル
  - 2期
    - ・★20○○\_2期\_使用教材決定用\_ALL.xlsx
    - ・★20○○\_2期\_使用教材変更用\_○○先生用.xlsx
    - ・マニュアル
    - ・マニュアル
  - 2期のみ\_使用教材を学生への連絡\_差込印刷
    - ・20○○\_2期\_教材個票印刷\_A4\_10枚印刷用\_最終版.xlsx
    - ・マニュアル
- 07 TOEIC スコア
  - ・20○○\_○月実施\_TOEIC-IPスコア一覧\_組別変換\_教員へ配布用.xlsx
  - ・TOEICのdata(丸善から提供)を組・席次順に変換するマニュアル.jtd
- 08 UnitTest テストスコア
  - ・20○○\_○期\_UnitTest\_第○回\_ダウンロードからの処理\_最終版.xlsx
  - ・20○○\_○期\_UnitTest\_第○回\_追試者のダウンロードからの処理\_最終版.xlsx
  - ・20○○\_○期\_UnitTest\_第1回から第4回\_追試者のスコア\_最終版.xlsx
  - ・UnitTestのダウンロードからの処理と個票印刷への操作法\_最終版.pdf
  - ・01\_各期の追試者の Unit テストのダウンロードからの処理ファイルの前処理法.pdf
  - ・02\_各期の追試者の Unit テストのダウンロードからの処理法
- 1期 (1期ファイル収納;現在は空dir)
- 2期 (2期ファイル収納;現在は空dir)
- 09 語彙テストスコア
  - ・★20○○年度\_○期\_発展語彙テスト結果入力\_ALL\_改訂版.xlsx
  - ・★20○○年度\_○期\_発展語彙テスト\_Set ○-○\_結果\_○○先生用.xlsx
  - ・マニュアル
  - ・マニュアル
- 1期 (1期ファイル収納;現在は空dir)
- 2期 (2期ファイル収納;現在は空dir)
- 10 個票印刷
  - ・★20○○年度\_個票印刷\_全期用\_最終版.xlsx
  - ・個票印刷マニュアル.pdf
  - ・設定マニュアル
- 11 学習時間 (TOEIC&UnitTest結果付)
  - ・★20○○\_○期\_学習時間\_ダウンロードから変換版\_最終版.xlsx
  - ・01\_学習時間のダウンロード方法\_完成版.pdf
  - ・02\_学習時間の表にUnit Testの得点を入力する方法\_完成版.pdf
- 12 成績処理関係ファイル
  - ・★20○○\_○期全成績data\_処理用.xlsx
  - ・全成績data\_処理マニュアル\_パスワード版.pdf
  - ・ファイル準備マニュアル
- <参考>
  - 88 メディア情報センターへ提出するもの
  - 99 Moodle登録用各クラス名簿

図7 成績管理プログラムのDirectory Tree (木村, 2018)

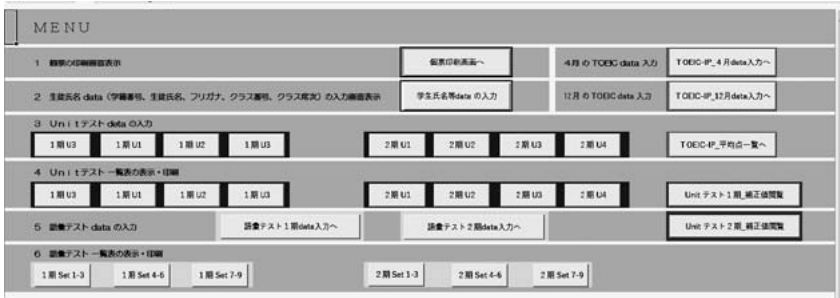


図8 TOEIC-IPスコア・教材振り分け・Unitテストと語彙テスト成績処理メニュー

## 5. 自律した学習者の育成

### 5.1 振り返りシートによる内省

椎名担当のクラスでは、Google アンケートの機能を利用して「振り返りシート」を作成した。Unitテスト終了後に、各自の成績と各自のエフォートについて振り返ることで、学習方略について考える機会を与えた。一例として、下記のように「ヒント情報の活用」に関する質問をした。なぜなら3SSでは、ただ繰り返し聞くのではなく、ヒントを参考にして聞き取りの焦点を絞りながら正解を探す努力がリスニング力向上に繋がるとされているからである。

#### Q2 Hint1, 2, 3の活用

Step2でHint1, 2, 3をどの程度Hintを活用しましたか？

※ヒント活用とはHintの指示に従って、Hint1→聞く→Hint2→聞く→Hint3→聞く、をすることです。

4 大変良く活用

3 ある程度活用

2 あまり活用しなかった

1 まったく活用しなかった

担当した3クラス（98名）の回答結果をA群（3+4：ヒントを活用した）とB群（1+2：ヒントを活用しなかった）に分けてUnitテストの平均値で比較した結果、ヒント活用のA群は81.6点、活用なしのB群は72.6点で、ヒントを活用してTASKに取り組んだA群の成績が有意差で上回っていた。ヒント

ト活用を自信を持って促しても良いことが明らかになった。

## 5.2 学習者カルテによるカウンセリング

表6に示した作業日程で、Unitテストや語彙テストの実施後できるだけ早めに学習者カルテを配布するようにした。カルテを見て学習方法などについて相談に来た学生やカウンセリングが必要な学生に対して、授業時間内に、カルテと一緒にしながらアドバイスを与えたり励ましたりするなど、個別学習と対面指導の組み合わせに努めた。

## 6. LC科目の授業改善に向けた研究

### 6.1 TOEIC-IPスコアによる英語力の把握

1年次生が必ず受験するTOEIC-IPスコアを使って英語力の把握や指導効果の客観的な観察を毎年行っている。一例として図9は2017年に入学した1年次生がどのような英語力を持って入学したかを示したものである。入学者の

表6 2018年度成績処理スケジュール

2018年度 Listening Comprehension 1期									
週	曜日			学習内容		テスト		処理スケジュール	
	火	水	金	Listen to Mel (LTM)	発展語彙 Business Communication 1	発展語彙テスト	LTM Unitテスト		
1	4/17	4/18	4/13	ガイダンス NY Unit 5 学習方法の解説、学習開始	ガイダンス 学習方法の解説、学習開始 Set 1: 会話				
2	4/24	4/25	4/20	NY Unit 5	Set 2: 銀行・経済				
3	5/1	5/2	4/27	NY Unit 5 総復習	Set 3: 商業				
4	5/8	5/9	5/11		Set 1, 2, 3 総復習		NY (Unit 5)		【処理・印刷】 5/11(金)pm 【借票配布①】 5/15(火)～
5	5/15	5/16	5/18	新教材 (FS/DL/IC/CL*) Unit 1 学習開始	Set 4: 郵便	Set 1～3 ※夜継続日: 5/24(木)pm			【処理・印刷】 5/24(木)pm 【借票配布②】 5/29(火)～
6	5/22	5/23	5/25	Unit 1	Set 5: 職業				
7	5/29	5/30	6/1	Unit 1 総復習	Set 6: 旅行				
8	6/5	6/6	6/8	新教材 (FS/DL/IC/CL) Unit 2 学習開始	Set 4, 5, 6 総復習		新教材 (Unit 1)		【処理・印刷】 6/6(金)pm 【借票配布③】 6/12(火)～
9	6/12	6/13	6/15	Unit 2	Set 7: 時間	Set 4～6 ※夜継続日: 6/21(木)pm			【処理】発展語彙→6/21(木)pm ・Unitテスト→6/29(金)pm 【印刷】6/29(金)pm 【借票配布④】7/3(火)～
10	6/19	6/20	6/22	Unit 2 総復習	Set 8: 環境				
11	6/26	6/27	6/29	新教材 (FS/DL/IC/CL) Unit 3 学習開始	Set 9: 健康		新教材 (Unit 2)		
12	7/3	7/4	7/6	Unit 3	Set 7, 8, 9 総復習				
13	7/10	7/11	7/13	Unit 3 総復習		Set 7～9 ※夜継続日: 7/19(木)pm			【処理】発展語彙→7/19(木)pm ・Unitテスト→7/20(金)pm 【印刷】7/20(金)pm 【借票配布⑤】7/24(火)～
14	7/17	7/18	7/20				新教材 (Unit 3)		
15	7/24	7/25	7/27	総括					

\*LTM教材名  
NY: New York Live; FS: First Step Abroad; DL: American Daily Life; IC: Introduction to College Life; CL: College Life



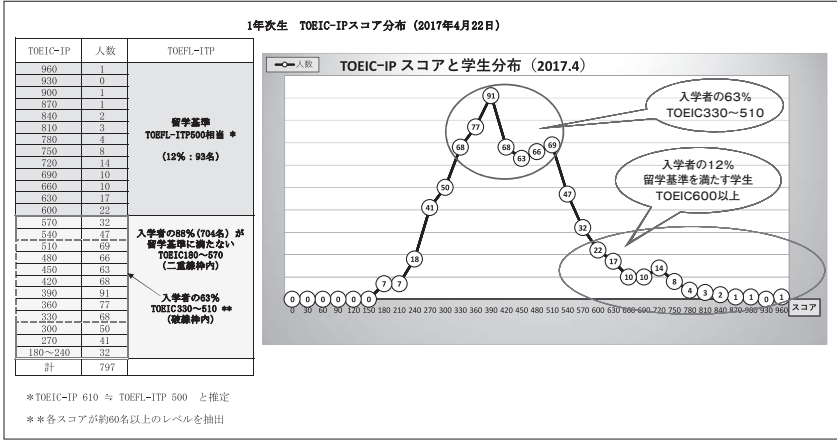


図9 2017年度1年次生4月の英語力

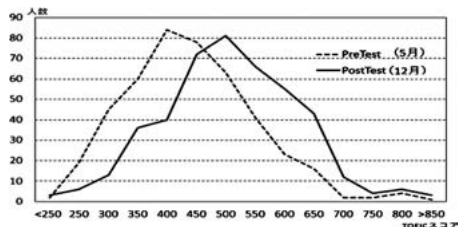
63%の英語力はTOEIC-IPスコア330~510の範囲内で、入学者の実に88%は留学基準に満たない180-570の英語力で入学している。留学やグローバル社会で働くことを夢見て入学する学生たちの英語力を留学判定時までいかに引き上げるか、そして4年間でいかに社会に出て通用する実用になる英語レベル、CEFRでB2以上 (TOEIC Listening 400~、Reading 385~)、CEFR-JでB2-2以上に引き上げていくかが、我々教員に課せられた喫緊の課題である。

## 6.2 TOEIC-IPスコアで見た英語力の向上例 (2016年度、2018年度)

2016年度にWeb教材 *Listen to Me!* で学習した外国語学部1年次生のうち、5月と12月のTOEIC-IPを両方受験し、4回のUnitテストと3回の語彙テストのすべてを受け、欠席回数は5回以下の学生438名の英語力向上を示したものが図10 (左右) である。真面目に学習すればどの位英語力が向上するかを知ることによって授業法の改善を図るための分析である。外大ゆえに他の良質な英語科目も英語力の向上に寄与していることは言うまでもない。

2016年度のスコアは460から526に上昇している。学習教材別にみると、1期に入門・2期に初中級レベルの教材で学んだ学習者の上昇量は94、初中級と中級教材の学習者は71、中級と上級教材の学習者は49上昇している。学生個々の英語力に合った難易度の教材で学習したことが功を奏したと思われ

一斉授業と自律学習による併合型指導の効果



TOEICスコアの上昇量にみる  
一斉授業と自律学習による併合型指導の効果

	Pre Test	Post Test	上昇量
	460	526	66
学習教材	Pre Test	Post Test	上昇量
FS + NY (115名)	339	433	94
NY + IC (170名)	443	514	71
IC + BB (153名)	582	631	49

図 10 2016・LC科目学習者スコアの推移

表 7 留学を目指す1年次生(2018年度)の英語力の推移  
※ 2018年4月と12月の両テスト(TOEIC-IP)を受験した学生

TOEIC合計点	人数		留学基準	
	4月	12月	4月	12月
960 以上	2人	3人	106人 16.7%	171人 26.9%
930 ~ 959	0人	1人		
900 ~ 929	2人	3人		
870 ~ 899	2人	4人		
840 ~ 869	3人	6人		
810 ~ 839	3人	2人		
780 ~ 809	4人	3人		
750 ~ 779	2人	8人		
720 ~ 749	12人	17人		
690 ~ 719	9人	20人		
660 ~ 689	14人	23人		
630 ~ 659	19人	29人		
600 ~ 629	34人	52人		
570 ~ 599	34人	46人		
540 ~ 569	56人	53人		
510 ~ 539	54人	65人		
480 ~ 509	50人	62人		
450 ~ 479	66人	63人		
420 ~ 449	67人	37人		
390 ~ 419	56人	50人		
360 ~ 389	50人	38人		
330 ~ 359	50人	23人		
300 ~ 329	25人	13人		
270 ~ 299	15人	7人		
240 ~ 269	4人	4人		
210 ~ 239	2人	3人		
180 ~ 209	1人	0人		
150 ~ 179	0人	0人		
120 ~ 149	0人	0人		
90 ~ 119	0人	0人		
60 ~ 89	0人	1人		
30 ~ 59	0人	0人		
0 ~ 29	0人	0人		
合計	636人	636人		

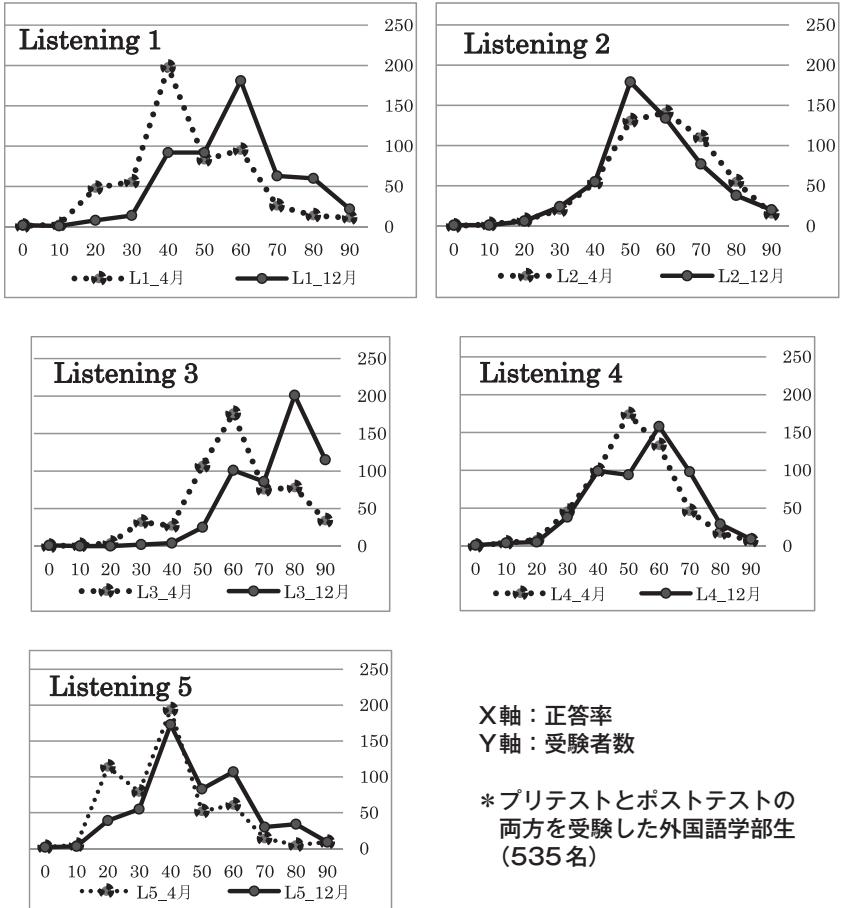


図 11 Listening力項目別推移

る。中・上級学習者のさらなる英語力向上のために、2017年度以降は学習教材の難易度をより細分化して4つのレベル分けにする必要があるという指針も得られた。

2018年度の学習効果を表7に示した。TOEICのスコア別にみると、4月と12月とでは確実に学習者の英語力が向上し、留学基準を満たす学生が16.7%から26.9%に増加している。2018年度のリスニング力の推移を項目別 (Listening1~5) に分析した結果を図11に示した。Listening2以外は顕著な向

上が見られる。短めと長めの会話やナレーションを聞いて詳細な内容や暗示されていることまでも理解できる力が伸びている一方で、長文聴解で、要点や基本的文脈の理解にもう少し伸びを期待したいところである。

### 6.3 成績の公正性に向けた教材の難易度の適正化に関する研究

教材の難易度として示されたTOEICスコアが学習者の英語力に合っていないと、難しすぎたり易しすぎたりして、期待した英語力がつかないこともある。成績評価の公正性の面から望ましいことではない。2017年度と2018年度に採用したある教材のUnitテストの平均点が他の3教材の平均値より低く、学生にとって不利になりかねないと考えた。そこで、2018年度に学長裁量経費を得て、教材の難易度を検証する研究を行った。その結果、当該教材の難易度が、提示されていたレベルよりも高いことが統計処理によって明らかになった。今後の教材割り振りに向けて重要な知見が得られたと考えている。

## 7. まとめ

名古屋外国語大学は、Web教材 *Listen to Me!* を使用した科目を必修化している全国でも唯一の大学である。必修科目ゆえに学習者全員が高い動機を持って学習するわけではないことから、外大独自の授業設計をして、幅広い英語力の学生に対応した難易度別教材や学習者カルテを使って個別学習と教師との対話を重視する対面指導の両方を融合（併合）する形態で授業設計をした。その結果、学習前後に実施した客観テストのスコアにおいて、1年次生全体の英語力に向上があったほか、異なる英語力のいずれのグループにおいても、差はあるが、英語力の向上が確認できた。自由筆記を含めた振り返りシートの分析結果からも、LC科目に対する学生の満足度が高く、今後の学習方法について自律的に考えられる学習者が徐々に育成できていることがわかった。

本校の“NUFS Next”（Global Future Project 2018）では、日本の中部地区をリードする高等教育の拠点になることを目指して、そのひとつとして、外国語教育においてはWBT（Web-based training）や「学生用学習カルテ」の導入

を謳っている。LC科目における外大独自の「LTM授業設計2018」は、まだ多くの改善点はあるものの一定の効果を示し、振り返りシートの集計の結果、学生の満足度も高かった。今後は、他大学との協力体制のもとに、名古屋外大が中心になって、そのノウハウを全国に紹介していくと良いのではないかと意見もある。今後に期待したい。

最後になるが、ITALLセンターの設立と運営に多くの力をお貸しくださった学長と恒川法人事務局長をはじめとして、教員と非常勤講師の皆様、メディア情報教育センターと各部局の職員の皆様に心より感謝の意を表して本稿を終わらせていただく。

## 注

- 1 チャンクとは、心理学者ミラーの提唱した認知心理学用語で、人間が知覚する情報のまとまりを意味する語。英語教育では数個の単語からなる意味のある語のかたまりを指す。
- 2 適正処遇交互作用：学習者の「知的能力・興味・学習動機」と「教材内容や授業方法」は相互に作用して学習効果に大きく影響する、という考え方（教育工学事典、P382）
- 3 授業設計：教師が自らの教育活動と担当する学習者の学習活動を、実践に先立ってあらかじめ想定して、目標の設定、授業内容の決定、活動系列の構想、教育研究、評価方法の明確化等を行う作業（教育工学事典、P282）
- 4 3 Step System 解説サイト：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~takefuta/3step/sots.html>
- 5 30%程度の理解：LTM教材のStep1程度（キーワードを聞き取って「話題は何か」がわかる程度）と定義して教材の難易度を確認してもらった。
- 6 スクーリング（schooling）：通信教育における一定期間の面接指導（大辞林第三版）

## 参考文献

- 阿佐宏一郎、与那覇信恵（2013）、「外国語学部新規開講科目『e-ラーニング応用』におけるCALL実践」、『文京学院大学外国語学部・文京学院短期大学紀要』、第9号、文京学院大学総合研究所、85-97。
- Cronbach, L.J. (1967), "How can instruction be adapted to individual differences?" in Gagne, R.M. (ed), *Learning and Individual Differences*, Charles Merrill.
- 椎名紀久子(2009), 『TOEICで高得点 チャンクで伸ばすリスニング』, 角川SSコミュニケーションズ.
- 椎名紀久子 (2013), 「CAN-DOリストの原点：CEFRとは？Q9: CEFRは評価のため？指導のため？」, 「CEFR-Jを理解する Q36: ListeningのCAN-DOと実際のスキルとの関連性は？」, 『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』, 投野由紀夫

- (編), 大修館書店.
- 椎名紀久子, 浅野昌子, 森明智, 新居明子, ウェストビィ三奈 (2017.8.6), 「難易度別 CALL 教材 *Listen to Me!* による一斉授業と自律学習の併合: 必修英語科目の壁を乗り越えて」, 外国語教育メディア学会 第57回全国研究大会研究発表, 於 名古屋学院大学.
- 椎名紀久子, 森明智 (2018.12.1), 「学習者の聴解力を最大限に伸ばすための Web 教材の難易度に関する考察」, 外国語教育メディア学会第92回 (2018年度秋季) 中部支部研究大会, 於 名古屋工業大学.
- 高橋秀夫, 土肥充, L. Pagcaliwagan, 椎名紀久子 他 (2004), *Listen to Me! New York Live*, CALL教材シリーズ 初中級, 千葉大学重点経費 (竹蓋幸生監修).
- 高橋秀夫 他 (2012), 「異文化理解を目指した英語聴解力養成用 CALL 教材の開発」, 『言語文化論叢』, No. 6, 41-52.
- 竹蓋幸生, 水光雅則, 椎名紀久子, 高橋秀夫 他 (2002, 2003), *Listen to Me! Introduction to College Life* (CALL教材シリーズ, 中級), *College Life II*, (上級), 文部科学省科学研究費補助金による特定領域研究「高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究」(領域代表者坂元昂)「外国語CALL教材の高度化の研究」(研究代表者竹蓋幸生).
- 竹蓋幸生, 水光正則 (編) (2005), 『これからの大学英語教育—CALLを活かした指導システムの構築』, 岩波書店.
- 与那覇信恵 他 (2015), 「英語 e-learning 教材の学修実態に関する定量的分析」, 『文京学院大学外国語学部紀要』, 第14号, 文京学院大学総合研究所, 37-48.
- 日本教育工学会 (編), (2000), 『教育工学事典』, 実教出版.

## 【資料】

UNIT 1 STEP 1 HELP




**Step 1**

学習のステップは Step 1 から Step 3 まであります。Step 1 では細かい点に気をとられず、どのようなことが言われているかを理解するようにしよう。  
「おおよそ」トピックは何かということが推測できれば十分です

NEXT をクリックしてください

QUIT


← BACK   START   NEXT →

進捗表

UNIT 2 STEP 2 HELP




**Step 2**

Step 1 では内容のおおまかな理解ができたと思います。Step 2 では言われていることをそのまま「正確に聞き取る」ことを目標にしよう

NEXT をクリックしてください

QUIT


← BACK   START   NEXT →

進捗表



## Step 3

Step 3 では言われていることを総合して「結論や発話の意図」を理解することを目標にします。Step 1, 2 で学習したことを思い出しながら学習を進めよう

NEXT をクリックしてください

QUIT



BACK

START

NEXT

進捗表



## HINT 1

キーワードやキーフレーズを採せなかったと思う人は以下の表現を探つもりでもう一度聞いてみよう。聞き取れた表現の □印 をマウスでクリックしよう

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> United States  | <input type="checkbox"/> living room         |
| <input type="checkbox"/> bigger         | <input type="checkbox"/> two couches         |
| <input type="checkbox"/> spacious       | <input type="checkbox"/> pet                 |
| <input type="checkbox"/> see your house | <input type="checkbox"/> two children        |
| <input type="checkbox"/> tour           | <input type="checkbox"/> center of the house |

QUIT



BACK

START

NEXT

進捗表



UNIT 1 STEP 1 PART 1 TASK 2 7 / 9 HELP



**TASK 2**  
以下のキーワードが今聞いた話の中に使われているとしたら、ここではどのようなことが話されているでしょうか、おおまかに結構ですので大胆に推測してみよう

**ANSWER**  
アメリカの家が大きいこと、子供たちとそのペット、家の中心であるリビングルームなどについて

- ★ また詳細な理解はまったく必要ありません、多い、少ないにかかわらず、どのような情報でも自分の得たすべての情報を使って大胆におおよそのことを推測する習慣をつけることが大切です
- ★ 自分の学習速度を知りたくなったときは、右下の速度表をクリックしよう

QUIT      WORDS      PHRASES      3      BACK      START      NEXT      速度表

UNIT 1 STEP 1 PART 1 TASK 1 4 / 9 HELP



generally      通常

yard

spacious

room

neighbors

suburban

hi

Brad

Susan

uh

tour

QUIT      CLOSE      WORDS      PHRASES      3      BACK      START      NEXT      速度表

音声聞きながら途中で理解できないワードがあれば、停止ボタンを押さずにそのワードをクリックすると、音声と意味が確認できる。その間、音声は停止している。

**TASK 1**

買い物を楽しんでいるのはどんなときだと言っていますか

**HINT 2**

especially when ... のあとでどんな場合が説明しています

QUIT

WORDS

PHRASES

3

BACK

START

NEXT

進捗表

**TASK 1**

買い物を楽しんでいるのはどんなときだと言っていますか

**ANSWER**

たくさんの品物から選べる時

**CONFIRM**

It is definitely fun sometimes, especially when you have a lot of items to choose from, like a place like this.

★ ここでは place を店 (store) の意味で使っています。その他に place を restaurant や home の意味で使うこともあります

QUIT

WORDS

PHRASES

3

BACK

START

NEXT

進捗表

Unitテストの前半・後半実施の手順 (火曜1限の例)

UNITテスト		実施手順	1限
		教室	
		前半実施	後半実施
9:10	【教員(教卓PC)】 ①出席状況確認 ②遅刻者(欠席者)の入室待ち(10分程度) ③★途中入室禁止の <b>開始</b> をスタート (「リスニング中」の受験者の妨げになるため)	9:10-9:50	【教員(教卓PC)】 出席状況確認 ほか 【学生】 Unitテスト範囲の復習
9:20 教員準備開始 遅刻者待ち	【教員(教卓PC)】 9:20頃から下記を開始 ①テストサイトにアクセス ②各クラスのクラス名(クラス名)をクリック ★(パスワードシートの前置番号を参照のこと) ③「パスワード」指定をクリック ④今回のテスト用パスワード(半角)入力 ⑤パスワードが正確な場合は「OK」をクリック ⑥「開始/終了」ボタンをクリック ⑦「開始」をクリック ⇒ このあと学生への指示を開始  【学生】 各自の教材のUnit復習	9:40 教員準備開始	【教員(教卓PC)】 9:30頃から下記を開始 ①テストサイトにアクセス ②各クラスのクラス名(クラス名)をクリック ★(パスワードシートの前置番号を参照のこと) ③「パスワード」指定をクリック ④今回のテスト用パスワード(半角)入力 ⑤パスワードが正確な場合は「OK」をクリック ⑥「開始/終了」ボタンをクリック ⑦「開始」をクリック ⇒ このあと学生への指示を開始
9:30 学生準備開始 遅刻者シャットアウト	【学生】 ①教材学習を完全に終了 ②Windowsの画面になっているか、他のアプリが開いていないかを学生どうして確認 ③机の上の物を片づける。片づける。片づける。 ④携帯やスマホの電源を切りカバンにしまう。	9:50 学生準備開始	【学生】 ①教材学習を完全に終了 ②Windowsの画面になっているか、他のアプリが開いていないかを学生どうして確認 ③机の上の物を片づける。片づける。片づける。 ④携帯やスマホの電源を切りカバンにしまう。
9:35-9:40 学生:テストサイト入力	【教員(教卓OHC)】 テストサイトとパスワードを記載した紙をOHCで提示 ★早くテストを終了して他のUnitテストを故意に聞こうとした場合はサーバに記録が残るので、次回のテストは大幅減点と伝える。  【学生】 ①Internet Explorer を立ち上げ、NUFSのURLを消去して、テストサイトのURLを入力する ②各クラスのクラス名(クラス001、クラス002など)をクリック ③ログイン画面にて ★NUFS-ID入力 ★NUFS/パスワード入力 ★中間モニターを見て「テスト用パスワード」入力 ④各自の教材をクリック ⑤受験するUnitをクリック ★誤って他のUnitをクリックしないよう厳重に注意する。	9:55-10:00 学生:テストサイト入力	【教員(教卓OHC)】 ①テストサイトとパスワードを記載した紙を提示 ★早くテストを終了して他のUnitテストを故意に聞こうとした場合はサーバに記録が残るので、次回のテストは減点(or 受験できない!)と伝える。  【学生】 ①Internet Explorer を立ち上げ、NUFSのURLを消去して、テストサイトのURLを入力する ②各クラスのクラス名(クラス001、クラス002など)をクリック ③ログイン画面にて ★NUFS-ID入力 ★NUFS/パスワード入力 ★中間モニターを見て「テスト用パスワード」入力 ④各自の教材をクリック ⑤受験するUnitをクリック ★誤って他のUnitをクリックしないよう厳重に注意する。
9:40-10:00 学生:テスト開始	テスト開始 ★テスト受験時間は約20分と学生に伝える。 ★OHCで終了時間を提示すると効果的 ★フリーズした学生のために臨機応変にテスト終了時間を決める必要がある。  【フリーズした時】 ★黙って手を挙げる。 ★フリーズしたら×をクリックしてWindowsの画面に戻る。 ★再起せずに、Windowsの画面(一番下)Internet Explorerをクリックし、テストサイトのURLを再度入力する。 ★フリーズした問題に自動的にジャンプするので解答開始。  【早く終了した学生】 ★スコア(%)のページを開いたまま、他の学生全員が終了するまで静かに待つ。 ★Windowsの画面に戻らない。なぜならネットサーフィンや学習画面を隣の受験者に見せる行為を防止するため。	10:00-10:20 学生:テスト開始	テスト開始 ★テスト受験時間は約20分と学生に伝える。 ★OHCで終了時間を提示すると効果的 ★フリーズした学生のために臨機応変にテスト終了時間を決める必要がある。  【フリーズした時】 ★黙って手を挙げる。 ★フリーズしたら×をクリックしてWindowsの画面に戻る。 ★OHCを再起せずに、Windowsの画面(一番下)Internet Explorerをクリックし、テストサイトのURLを再度入力する。 ★フリーズした問題に自動的にジャンプするので解答開始。  【早く終了した学生】 ★スコア(%)のページを開いたまま、他の学生全員が終了するまで静かに待つ。 ★Windowsの画面に戻らない。なぜならネットサーフィンや学習画面を隣の受験者に見せる行為を防止するため。
10:00-10:05 学生:テスト終了	★教員:全員のテスト終了確認後、学生に×をクリックするよう指示。 ★学生:Windowsの画面に戻り、他の学生がテストを終了するのを待つ。	10:20-10:25 学生:テスト終了	★教員:全員のテスト終了確認後、学生に×をクリックするよう指示。 ★学生:Windowsの画面に戻り、他の学生がテストを終了するのを待つ。
10:05頃 教員: テスト終了ボタン	【教員】 ①終了ボタンをクリック ②(テストを終了してよろしいですか?) ⇒OK クリック ③テスト終了の確認 ⇒ ×をクリック ④「開始/終了」ボタンをクリック ⑤(テストを終了する場合は、「終了」ボタンをクリックしてください) ⇒ 「終了」ボタンをクリック	10:25頃 教員: テスト終了ボタン	【教員】 ①終了ボタンをクリック ②(テストを終了してよろしいですか?) ⇒OK クリック ③テスト終了の確認 ⇒ ×をクリック ④「開始/終了」ボタンをクリック ⑤(テストを終了する場合は、「終了」ボタンをクリックしてください) ⇒ 「終了」ボタンをクリック
10:40まで	次のUnit 学習開始、発展語彙学習、その他	10:40まで	次のUnit 学習開始、発展語彙学習、その他